

ミュージアム自然観察路の両生類

文：三宅 隆、写真：三宅飛鳥

ミュージアムの裏山にある自然観察路では、今までにイモリ科でアカハライモリ、ヒキガエル科でアズマヒキガエル、アマガエル科でニホンアマガエル、アカガエル科でネバタゴガエル、ツチガエル、アオガエル科でモリアオガエルの5科6種類の両生類が記録されています。県内の両生類は、生息環境の変化などで、生息数が減少している種類が多く、県のRDBでは、アカハライモリ、ツチガエル、モリアオガエルは準絶滅危惧種、アズマヒキガエル、ネバタゴガエルは、要注目種に指定されています。



アカハライモリ
観察路の側溝内に春から秋にかけて見られ、繁殖もしています。



アズマヒキガエル
あまり見かける事はないのですが、ときに大きなヒキガエルが現れます。



ニホンアマガエル
これもあまり多くありませんが、鳴き声も聞かれます。



アマガエル
数は多くありませんが、側溝の水の傍で見られます。



ネバタゴガエル
春4月頃、絞り水の流れの土の中から、声(人によってはイヌの鳴き声に聞こえとか)が聞こえてきます。姿はめったに見られません。



モリアオガエル
5月から6月にかけて、側溝の上の枝に卵塊を産み付けます。落ちたオタマジャクシは、側溝の水の中で成長し、山に帰っていきます。